

整理番号	02-0924
区分 (事務局記入欄)	<input type="checkbox"/> 臨床研究( <input type="checkbox"/> 受託・共同 <input type="checkbox"/> 院内) <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 医薬品 <input type="checkbox"/> 医療機器 <input checked="" type="checkbox"/> その他

## 医学研究に関する情報公開文書

西暦2024年 5月 13日

研究課題名	ナブパクリタキセル・ゲムシタビン療法を受けた進行膵癌患者における ABO 血液型の予後因子としての意義
研究実施期間	開始 西暦 2024 年 6 月 5 日 ~ 終了 西暦 2025 年 3 月 31 日 (予定)
研究の対象となる方 (予定症例数)	2015 年 1 月~2023 年 5 月に当院で進行膵癌に対する 1 次化学療法としてナブパクリタキセル・ゲムシタビン療法を施行し、血液型が評価されていた 87 人の患者 (予定症例数 : 87 例)
研究の目的・方法	[目的] 多種のがん種において罹患率や予後に関して、血液型との関連があることが報告されている。切除可能膵癌においては、0 型の予後が良好とする報告がある一方で、違いはないとする報告もあり、一貫した結論は得られておらず、人種差や治療内容による差が影響している可能性が示唆されている。進行膵癌に対する標準治療であるナブパクリタキセル・ゲムシタビン療法 (AG) を一次治療で施行した日本人患者における ABO 血液型の予後因子としての意義は明らかではない。そのため、我々は、AG を一次治療で施行した進行膵癌患者における ABO 血液型の予後因子としての意義について後方視的に検証した。 [方法] 2015 年 1 月から 2023 年 5 月までに当院にて 1 次化学療法として AG を受け、血液型が評価されていた進行膵癌患者 87 名が対象である。87 人のうち、40 人 (46%) が A 型、20 人 (23%) が B 型、20 人 (23%) が O 型、7 人 (8%) が AB 型であった。B 型と非 B 型に患者群をわけて、臨床的背景を比較するとともに、予後因子を統計的に検証した。
研究に用いる試料・情報の種類	カルテ番号、生年月日、イニシャル、化学療法導入日 等のカルテ情報
問い合わせ先	<ul style="list-style-type: none"><li>・本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</li><li>・ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</li><li>・また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</li></ul> <p>地方独立行政法人市立東大阪医療センター 研究責任者：臨床腫瘍科 &lt;副部長&gt; 家出 清継 住所：大阪府東大阪市西岩田三丁目 4 番 5 号 TEL:06-6781-5101</p>